

10月28日(金)西野博之さんをお迎えし、
(NPO法人ブリースペースたまりば理事長/川崎市子ども夢パーク所長)

親育ち講座 2011 講演会を開催しました。

森で遊ぶ子どもたちを見守りながら、思い思いの場所で西野さんのお話に耳を傾ける一本濡れ日のなかの講演会
当日は、131人(大人81人、子ども50人)もの人が森に集いました
長年、子どもたちに寄り添ってこられた西野さんのお話を伺い、一緒に考える時間はとても充実した時でした
西野さんからの一人一人に語りかける言葉の数々と、それを受け止める参加者皆さんの声とともに、この時間を振り返りたいと思います

参加者の声

「安心して失敗できる場所」心に響きました。帰ったら子どもを抱きしめてあげたいです。
(山本真実・1才)

西野節が健在で良かった。元気をもらいました。私も無駄な時間で心のバランスを取って、居場所作りの活動を続けます。
(伊藤利枝)

共感できることがたくさんあり、今後の子育てに活かしていけそうです。近くの公園ではボール遊びが禁止になってしまいました。子どもたちの失敗の場を奪っているようで納得できません。先生の話聞いて、よりいっそう感じました。(J.S・5,2才)

もっともっと愛情を注ぎたくなった。生まれてきてくれてありがとう！と言いたい。(匿名・4才)

すごく良かったです。上の子に沢山ごめんなさいが出てきた。これからはありがとうを増やしたい。(M.H・5,2才)

子どもとの関係を1度見直して、一緒に成長していきたいと思いました。(匿名)

私自身も自信がない人なので、その原因が少しわかったような気がするし、子どもに同じような想いを指せてはいけなそう思いました。ずっこけてたほうが良いと言われ、気持ちが楽になりました。(M.O・3才)

すべてが珠玉の言葉でした。どんどん失敗させて生きていきたいです。(加藤千香・4,2才)

子ども時代の失敗は

～子どもにとってよかれと思っていることが

「日本は失敗しちゃうけど根付いている！」
自分のことを価値があると思えない子どもが世界で一番多いのが日本
怪我させたくない、苦労してほしくない…そんな親の思いを背負う今の子どもたち
親自身が失敗したくない、それが子どもを生きにくくさせている
親だって、失敗したっていいんだよ！

「親同士で子どもを見守れるようになったほうがいいよね」
「ごめんなさい、ありがとう、かーしーてー」を教え込まれて
子ども時代にケンカをしていない子どもたち
人の痛みが分からないまま成長してしまう
過剰に親が介入して、子どもを生きにくくさせている
安心して失敗できる場づくりこそ大事！



「子どもといてイライラしてどうしても叱りたい気持ちになった時
それは子どもの問題？それとも私自身の問題？」
と立ち止まって考えてみてごらん



「子どもは失敗からたくさん学ぶんだ！」
子どもが泣きながらこっちに來たら
じっくり話を聞いてあげればそれで十分

「ゆる親キャンペーンを提唱しています！ズッコケた親くらいがちょうどいい！」

よその子には優しくできるのに、我が子には厳しくなっちゃうよね
親が正しすぎると子どもは窮屈で生きづらい
「よかれと思って」「あなたのためを思って」は優しい虐待
先生がほめてくれる、親がほめてくれる、それがうれしくて頑張る基準になってしまっている子が多い

親は子どものことを面白い練習ができるといい

たわいのないうそに、「そうじゃないでしょ」と声をかけてしまったら、気づいたことがたくさんありました。抜けている実母に、どうして？！と思っていましたが、実母を真似することが大切なんだなと心に灯りがともりました。向き合ってみます。(渡辺綾子・5,3才)

ついつい日々の忙しさに、「生まれてきてくれた感動」を忘れてしまっている自分がいました。ここに存在していることを感謝していきたいと思いました。とても感動しました。(S.M・10,1才)

親として母としての責任や人格、人間として正しくあらなくてはならない重みに押しつぶされそうになっている自分のことも、もっと楽になって良いんだ、楽にならないと子どものためにもならないことに気付かされました。子どもと一緒に今を楽しんでいこうと思います。(石橋鈴子・2才)

可能性の宝箱

子どもの本当の幸せになっていますか～

「できなさを抱えている人の集まりこそ社会の縮図」
できるだけたくさん「できない子」がいる中で子どもを育てよう
周りに授業妨害する子がいたら、「しめた！」と思おう
人は、いろんなできなさを抱えているもの
これを否定すると
心が寂しい子どもになってしまう



「比べない！！」

比べることで、自尊感情をどんどん削っている
「お姉ちゃんのくせに…」というも比べる言葉
比べなくたって言いたいことはメッセージで伝わる
「こうしてくれたら私はうれしい！」
比較しないで伝えよう

「ありがとう！で子どもは育つ」
メッセージで伝えたら、子どもに「ありがとう」が言える
「ありがとう」で子どもが育つ
「ありがとう」って言われると
自分がここにいていいんだって思える

「生まれてきてくれて、ありがとう！」

「Being」と「Doing」—「存在すること」と「すること」
今の社会はDoing(すること、できること)にばかり目が向いてしまっている
でも、思い出してみても、思い出してみても、
子どもが生まれるとき、無事であってくればそれだけでいい、と願って出産したはず
これこそまさに「Being」
だけど数か月後にはもう「する」ことに目が行き始める
運返りができるか？ハイハイは？そして、数年後には、もっといろいろと比べている
Doingばかりに目が行くようになる
たった数か月たった数年で生まれてきたときの「Being」への想いを忘れてしまう…



「生まれてきてくれてありがとう、生きてるだけですごいです！」

その思いを忘れないだけでいいはず
そうすれば、多少のDoingのことは気にならなくなる

子育てしていると正論というのを前面に出し始めていて、子どもに重圧を与えてしまっていた自分に気づきました。昨年子どもが不登校になって、その状況を抜け出しましたが、自分がその時に気づけなかったことを西野さんに気付かせて頂いたと思います。(匿名)

今日も自分の都合で子どもをしかってしまったりと後悔しながらお話聞いたので、涙が止まりませんでした。毎日西野さんの顔を思い出せば少しずつでも変われますね。子どもと過ごせる時間を大切にしたいです。(田村美保・5,0才)

今の子どもたちに、無理に色々押しつけてはダメだと気づかされました。もったのんびり構えて子育てしたいと思いました。(加藤未来・4,1才)

企画「一」の母より

多忙を極める西野さん
「講演に来てもらいたい」
その思いをぶつける以外、講演を引き受けてもらうための秘策はありませんでした
講演依頼の手紙を投函した数日後、携帯電話に留守電が、西野さんからでした
緊張しながらかけなおすと、面談やお仕事の合間を縫って、電話口に出てくださいました西野さん
「メールで返事してもよかったんだけどね、あなたの手紙でちゃんと気持ちを受け取りましたよ、だから講演会引き受けますよ、と直接伝えたくてね」
長年、不登校や引きこもりの子どもたちの居場所づくりに尽力されている西野さんから「ひとの気持ちを大切にすること」を教えられた気がしました
「西野さんにお会いしてみたい！」
その気持ちは一気に高まりました
そして講演会当日、集まったみんなが西野さんとの出会いに感謝し、西野さんのメッセージを、子育ての「核」として深く胸に刻んだのでした
※今回で3回目を迎える、親子連ち講演会「子育て中であってサービスを受けるだけの立場ではなく、地域の子どものために活動したい」と思う、子育て真っ最中の親たちが講演会の企画から進行までを担当しています